

Google Book Search 和解からの離脱声明 Statement about Opting Out of the Google Book Search Settlement

Google Book Search 著作権侵害集団訴訟 (The Authors Guild, Inc. et al. v. Google Inc., 事件番号 : 05 CV 8136 ; S.D.N.Y.) に関し、文筆家・池田晶子(1960 - 2007)の著作権承継者である私たち「特定非営利活動法人わたくし、つまり Nobody」は、以下のとおり和解案への拒絶を表明し、本件の和解管理者に対して、当該和解からの離脱を申入れます。

私たちは、当該訴訟事件が、著述および出版という営みの本質に関わり、そのあり方を問うものとの認識のもとに、事実関係、事件の概要、そして和解案の内容を慎重に検討してまいりました。

その結果、まず、池田晶子を著者とする書籍の大半がグーグル社によってスキャンされるおそれのあること、その一部は私たちの許諾なく既にスキャンされた可能性のあることを認めました。これは米国著作権法下でも、著作権侵害の疑いが極めて高い行為です。

また、この訴訟事件は米国特有の「集団訴訟」によるものであるところ、米国の原告により日本の著作権者が適切に代表されているとは言い難く、その原告「集団」の構成員に米国以外のベルヌ条約同盟国の著作権者を含むとしたことは誤りであり、私たちは当該和解に無関係であると確信するに至りました。

そして、和解案の内容を検討した結果、当該訴訟事件に関するグーグル社の主張と構想、ならびに現状の和解案は、いずれにしても認容できないとの結論に達しました。

たしかに、著作物の利用態様のみを考えれば、たとえば和解案を認容したうえで池田晶子の著作につき利用を制限する選択もあるでしょう。しかし、前提とされているグーグル社の構想そのものが、著述、出版活動における各国の固有性と多様性を毀損させかねないものであります。私たちはこの問題の根底に、彼我の言語文化観、著作者および著作物に寄せる歴史的思想背景、また法体系や法慣習、商慣習の相違を考慮することなく、書籍を商業財としてのみ捉えたうえで、世界中の著作物の権利処理をいちどに行なおうとすることの無謀と不可能を認めざるを得ません。

このまま和解案を認容してグーグル社の構想を受け入れることは、いわば、再び造られつつあるバベルの塔の増長に加担する行為にすら思われます。

私たちは、文筆家・池田晶子の言語観と書籍出版への意思を尊重する著作権承継者として、この和解案の内容、そしてその前提とされているグーグル社の構想に賛同することができません。

以上の事由によって、私たちは、現状の和解案の内容を拒絶し、和解から離脱することをここに表明します。

同時にこの表明がグーグル社およびその関連会社に対する私たちの著作権その他の権利の主張・行使に何らの影響を与えないことを確認します。私たちが承継した池田晶子の著作物とこれに対する権利を、グーグル社およびその関連会社が無断で利用することを断固、拒否するものであります。

なお、離脱する著作権者と該当する著作物、書籍の表示を、添付書面 1 . としてこの声明に添付します。

また、和解案を拒絶して離脱に至る具体的な理由を詳述し、添付書面 2 . としてこの声明に添付します。

以上、声明いたします。

2009年8月15日

(池田晶子著作権承継者) 特定非営利活動法人 わたくし、つまり Nobody